

戸田の看護学生ら制作

手作り枕で「安眠を」



「みんなでやるからできる」と枕の手作りに取り組む生徒たち
—2日、戸田市本町の戸田中央看護専門学校

戸田市本町の戸田中央看護専門学校(中村毅校長、生徒数360人)の生徒たちが、熊本地震の被災地へ贈る枕の手作りに取り組んでいる。長引く地震で、いまだに避難所で暮らす人も多い。「睡眠を十分に取れないのでは」と心配した生徒らが、手作りの枕に一人一人のメッセージを付けて送り出す。

授業が行われた2日、2年生の生徒たちが、幅1・1メートル、長さ80センチの大きな木綿の布を縦70センチ、横40センチの枕1個分に裁断し、ミシンがけをできるよう下準備に取り組んだ。仕上げ作業は、連休明けになる見込み。熊本県の被災地で活

熊本地震の被災者へ

動している戸田中央医科グループの医療支援隊と連絡を取り、目標は50個にした。

指導は同校事務長の福岡栄一さん(54)。2011年の東日本大震災では、岩手県山田町の避難所へ生徒たちが作った枕400個を贈り、喜ばれた。「あの時の経験を生かしたい」と話す。

布の裁断に取り組んだ小池康予さんは、「この仕事は一人じゃできない。心を込めて、みんなと一緒にできる」。メッセージを書く仕事をした町田未来さんは「避難所の皆さまへ、少しでも安眠を届けたい」と話していた。

(岸鉄夫)